

SROLANH NEWS

カンボジアの障がいのある子どもたちの「生きる」を支援する。



発行：NPO 法人スロラヌプロジェクト
〒655-0049
兵庫県神戸市垂水区狩口台4丁目31-505
TEL：090-9982-4032
Email：srolanhproject@gmail.com

チョムリアップスオ！～ごあいさつ～ NPO 法人スロラヌプロジェクト代表 飯塚 由美子



トゥクトゥク

酷暑が続く中、体調管理に気を遣う日々が続いています。皆様も熱中症に気を付けて乗り切ってください。

いつも当法人に暖かいご支援ありがとうございます。先月7月19日から23日まで定例の支援活動にカンボジア王国シェムリアップ州に行ってきました。カンボジアは相変わらず暑かったですが、トゥクトゥクに乗って風を感じながら村に向かう時は、青い空と緑の森に癒される時間でもありました。今回は、メンバーの高橋さんが仕事の関係で参加が叶わず、救急セミナーはない活動でした。アプサラ機構からは期待の声もありましたが、次回には実施することをお伝えしご承いただきました。

今回は、名古屋の一般社団法人日本福祉協議機構から代表の濱野氏御家族他職員の方2名が活動に参加してくださいました。皆さんの積極的に現地での子ども達に接して下さる姿に頭が下がる思いでした。今後も職員の方が同行して下さるとのこと、大変心強い思いです。5日間短い期間での支援活動も、メンバーのチームワークで無事に終えたこと、そして、皆様のご支援があってこそ、カンボジアの子ども達に栄養のある食事や文具や井戸などを提供できたこと、本当にありがとうございました。



スロラヌ小学校

障害児支援活動報告 モンテッソーリアン 浅原 奈緒子



ワットボー小学校での打ち合わせ



ワットボー小学校先生に対して視覚トレーニングの指導

り組んでくださいました。今後もYouTubeなどを利用して、継続的に色々なトレーニングを紹介していく予定です。

視覚のトレーニングは、障害のある子どもも含めた全ての子どもに有効で、クラスでできるものがたくさんあります。障害のある子どもに対して個別に関わることが有効なこともたくさんありますが、このようなトレーニングを通して障害児教育を進めていくことで、カンボジアにインクルーシブ教育が根付くことを願って活動していきたいと思えます。

***インクルーシブ教育：子どもたち一人ひとりが多様であることを前提に、障害の有無にかかわらず、一人ひとりの能力や困難さが考慮された、すべての子どもたちのための教育**



シェムリアップ師範学校



スロラヌ小学校

の紐をつけて風を作って外で飛ばしました。小学校では図画工作の時間がないので、子どもたちはこんな簡単なものでもとっても楽しそうに遊んでくれました。これからも、子どもたちに色々な経験をたくさんしてもらって、たくさん楽しんでほしいなと思います。

今回も、カンボジアで本当に必要な教育や支援はどんなものなのかを考えました。答えは見つかっていませんが、ワットボー小学校などの活動を通して、また、シェムリアップリハビリテーションセンターを見学したり、カンボジアで障害のある方を雇用されている日本人の方のお話を聞いたりしたことで、何か一つ、前へ進めたような気がしています。今後も、各活動を振り返り、しっかりと計画を立てていきたいと思えます。

スロラヌ歯科部現地活動報告 (2019.7.19 ~ 23) 歯科医師 大森 茂樹

歯科部として12回目の現地活動に参加した。歯科医師2名、保育士1名、ビューティパートナー1名が主なメンバーとして活動した。適宜他部門のメンバーに力を借りて歯科保健啓発活動を行った。歯科部としての活動概要は次の通り。

小学生対象の歯科保健指導：スロラヌ小学校児童 61人/師範学校付属小学校1年生 約80人

中学生対象の歯科保健指導：ドントロー中学1年生徒 49人/アンコール中学1年生徒 67人

学生に対する歯科保健指導：師範学校学生(1年次) 約50人

障がい児口腔ケア：デイ・サービス等にて5人

村での歯科啓発(ハブラシ配布)3カ所



スロラヌ小学校

ほぼすべての場所において保育士の松井さん主導でパペット(ロンタクン)を用いて口腔衛生に関する啓発の導入を行った(計12回)。

小学校・中学校では歯垢染色を施したうえで全員にハブラシを配付し、ブラッシング指導を行った。ハブラシの持ち方についても重点ポイントとした。なお、スロラヌ小学校では、主に1年生に対し下顎臼歯部の写真を撮影し、記録した。

今回は歯科医が2人参加ということで、役割を分担することができたので、少しゆとり子どもたちの口の中を観察することができた。

これまでの指導の成果が表れているのかどうかは不明だが、1年生の子どもたちの口の中にはカリエスが深刻な状況である児童は少なく、永久歯列になったとき、カリエスフリーの可能性もつ児童が何名もいた。

ドントロー中学では前回に続き相互に寝かせみがきを行った。中学生に対しては、自分でうまくブラッシングができない人に対して、介助してもらいたいことを伝えた。自分が親になったら子どもの歯の手入れをし、むし歯から歯を守ってほしいことを強く要望した。

デイ・サービスでは孤児院の青年4人にロンタクンをやってもらった。2回目だったこともあり、また前日に打ち合わせをし、練習する時間も確保したことでも上手に演じてもらうことができ、場を盛り上げてもらった。



ドントロー中学校



障害児デイサービス



シェムリアップ師範学校



シェムリアップ師範学校

支援している障害児は成長に伴い、ブラッシングに対する意欲向上が認められた。これまで拒否が強かった幼児が母の仕上げみがきに素直に応じている姿もあった。母親が日々努力している成果に違いない。

師範学校では連絡がうまく通っておらず、活動の実施が危ぶまれたが、何とか臨機応変に対応した。協力して下さったメンバーのみなさんのおかげで時間内に小学1年2クラスに対してブラッシング指導を行えた。

師範学校の学生に対しては前回同様歯の生え替わりについて図示したプリントに手順も記載して配付し、児童に対する指導を学生が中心となって実習してもらった。

また、実習後にアンケート調査用紙を配付し、満足度や印象に残ったことなどを記入してもらおうと試みた。しかしながら、英語の理解度が予想に反していて、回答してもらうための時間も短かったため、十分な回答を得ることができなかった。

それでも、得られた回答からは満足度について有効回答18人中14人から満足あるいは大変満足という回答を得た。将来生徒に対し歯の健康教育をするかという質問に対しては、回答のあった17人全員がyesと回答してくれた。

今回はじめて訪問した村でもロンタクンの実施とハブラシ配付をしたが、村でのこうした活動は今後も行いたいと考えている。市内での活動より、届けるべきところに手を差し伸べていると感じるからである。

最終日にブラッシング指導を実施したアンコール中学はマンモス校で、希望があれば今後も継続してブラッシング指導を行うことになる可能性が高い。マンネリにならぬよう、バージョンアップが必要だ。しかしながら、1年半前に作成した手作りの媒体は生徒たちに注目してもらっていただくことができているように思う。やはり簡単な単語だけでもクメール語と英語の併記をすることで意欲ある彼らのやる気を引き出すことができるかもしれない。

歯科部は今回も「未来の子どもの歯を守るためにできることを」を活動テーマに掲げて臨んだ。できることをできる人ができる範囲で、みなさんに歯科の支援をバックアップしてもらいながら実施した。将来教師になる学生や、将来親になってゆく中学生には、「子どもの歯を守って下さい」と伝え続けることが大切だと考えている。今後も未来の子どもの歯を守るという観点で活動を継続していきたい。歯科医2名の協力体制が続けられるならできるだけ続けたい。

今回の結果を踏まえて事前に宇都宮先生と綿密な打ち合わせにより計画を立て、新たなチャレンジをしたいと思っている。活動の場を与えてもらっていることに感謝して、これからも楽しく活動していきたい。



宇都宮歯科医師と共同作業

スロラニユ歯科支部現地活動報告その2 歯科医師 宇都宮 淳

7月20日(土)
AM:スロラニユ小学校



左から宇都宮夫人と松井さん



スロラニユ小学校

スロラニユ小学校にてブラッシング指導。大森先生の挨拶の後、松井さん、宇都宮夫人による絶妙な駆け引きで生徒参加型のロンタクンを行っていただきました。

続いて私のブラッシング指導で、喋りの下手な私は幼稚園児、3年生2クラスということで年齢別に幼稚園児には歯磨きの目的、必要性を話しました。

3年生は、歯磨きの必要性はもとよりブラシの持ち方まで踏み込んでアプローチしました。

実習終了後、各自自分の歯ブラシを持っているかの質問に約3分の2が持っていないと答え驚きました。頭が少し混乱しつつ歯ブラシの配布の必要性を実感した。

PM:ドントロー中学に場所が移り、ロンタクンの後私の担当となった。

前回訪問時と同様ベアーによる仕上げ磨きの体験実習とした。中学1年生、テレがありつつ交互実習に入った。やはりブラシの持ち方、動かし方を各自訂正して回り交互実習は終わり質問、感想に移った。午前の小学3年生から対話型の形とし他の生徒がいる中で指摘された生徒の考えを表に出すことでその生徒、回りの生徒にも記憶に残り少しでもプラスになればと思いました。これからもこの形をベースに益々口腔ケアに対する意識を向上させていきたいと思う。



ドントロー中学



ドントロー中学校にて集合写真

7月21日(日)
AM:障害児デイサービス+α

孤児院にて大森先生の指示のもと障害児を中心に歯磨き、口腔状態の確認を行った。障害児、低年齢の孤児については特に大きな問題はなくお世話される方、保護者の方の関心の高さと思われる。



障害児デイサービス



障害児デイサービス

やさしい授業 元小学校教諭 須藤 徳子



スロラニユ小学校



スロラニユ小学校

7月20日(土)スロラニユ小学校で、1年生と3年生の授業を行った。

最初は3年生。カンボジアでは2年生で2~5の段、3年生で6~9の段を学習するので、この時点ですべての掛け算学習が終わっていることを担任の先生に確認し、日本で集めてきた掛け算カードを一人に一つずつ配った。担任に、カードの使い方を説明し、担任から子供たちに説明してもらう。そうすることで、この後も担任が必要と思った時にカードを使った学習を子供たちにさせることが出来ると思った。

2年生で学習済みなので簡単に出来ると思っていた2の段3の段も、忘れてしまったのか、2×1から順に唱えて答えを出している様子も見られた。早い子は早い子なりに、ゆっくりの子はゆっくり思い出しながら、どの子も集中して取り組んでいた。隙間の時間に少しずつ繰り返しカード学習をすることで定着出来ると思うので使ってみて下さいと担任に伝えた。

一方、支援のいるソーム君も登校して来ていたので、以前担任に預けていた手作りの教具を出してもらい、皆が掛け算カードをしている間、一緒に取り組んだ。私が置いた磁石と同じ色の磁石を同じ場所に置くという学習だ。少し、ヒントを与えると自分で考えてすることが出来た。出来ると、とても嬉しそう。彼が登校して来て皆と同じことをするのは難しい。といて、担任が横についてマンツーマン指導もできないので、一人で出来る教材(ぬりえ)を2月に預けておいたが、少ししか出来ていなかった。3年生の子供たちの指導を頑張っている担任に、これ以上あれこれお願いするのとはばかれ、せめて私達が行った時は楽しく出来ることをさせてあげたいと思った。



ソーム君の教育支援

井戸支援報告 現地スタッフから今年は雨が少なくて村の生活が大変

であるとのこと。そんな中、今回2名の方から支援いただき合計7基の井戸を作ることが出来ました。本当にありがとうございます!!



お母さんたちへのメイクサービス サキナビューティーパートナー 宇都宮 寿子

今回で2年ぶり3回目の参加でした。前回までは歯科部のサポートのみのお手伝いで、いつも皆さん福祉の専門家や教師、救急救命士、歯科医師など専門職を生かされた活動されていて素晴らしいな、私の仕事はこの活動にはお役に立ちそうもないなって思ってたが、今回孤児院にデイサービスに来られてお母さん達にメイクをしてあげたら喜ばれるのではないかとのご提案をいただいてお役に立つことならばとさせていただきます。



メイクサービス

せっかくするのであれば、多分普段はした事がないであろうネットで生クリームのような泡を立てての洗顔、そのあとフェイスマスクでのローションパックをしてからのメイクをさせていただきます。お肌の色も違うしどの様な仕上がりになるのかとドキドキしましたがそれなりに馴染んで、カンボジアのお母さん達は目元がとてもはつきりして綺麗な方で素敵に仕上がりました。そしてヘアアレンジも得意なメンバーの皆様

に素敵に仕上げさせていただいて最後に写真を撮ってプリントしてプレゼントさせて頂きました。お母さん達の嬉しそう、恥ずかしそうな表情がとてもかわいくなって思いました。後でお聞きしたお話で、デザインちゃんのお母さんがとても明るかったのがある時期から笑顔がなくなって別人くらいになってたのが、メイクをしてもらえるっていう言葉を聞いた一瞬で飛び跳ねて弾ける笑顔で飛びついて来てくれた元の明るいお母さんに戻った、と聞いてとても嬉しい気持ちでいっぱいになりました。いつもお仕事を覚えて頂いているのは、女性が綺麗になりたいっていう気持ちを持つことはとても大切な事。綺麗になると笑顔が増えて優しい気持ちになるし自分に自信が持てると人にも優しくなれる。お母さんが笑うと子供も嬉しい。女性は大地。大地が豊かだと植物もスクスク育つ綺麗な花も咲きます。だから、特に子育てされてお母さん達にはそういう気持ちを持って欲しいと思います。今回綺麗になると嬉しいことは世界共通なんだ! 元気になれる! って改めて思わせて頂きました。障害児の子育てを日々頑張ってお母さん達に、時々でも今回の事を思い出して頂けたら嬉しいです。



デザイン君のお母様

長年の活動を振り返って NPO 法人スロラニユプロジェクト代表 飯塚 由美子

2013年8月に特定非営利活動法人(NPO法人)の認可を受けてから早6年がたちました。2010年から、ボランティアグループ「すろまい・こ〜プロジェクト」として活動し、2012年にはたくさんの方からのご支援で、「私たちのスロラニユ小学校」を建設しました。

NPO法人スロラニユプロジェクトとしての活動は4本柱として「学校建設後の継続支援」「障害児支援」「歯科支援」「救急救命セミナー」を中心として継続しています。当初立ち上げたメンバーが障害児者支援を生業としている者だった為、現地でも障害児者に関心が行き、ほとんど支援(社会保障)がなく、学校へも通えていない実態に対して、少しでも改善できればとの思いが強く、色々アプローチしてきましたが、なかなか前進しない中、村の障害のある子どもに対しては、個々人に合った支援を提供してまいりました。例えば、両親と死別し小学校6年生の妹が生活費を稼ぎ、脳性まひの兄の面倒を小学校2年生の妹が見ていたパット君は、ご本人と兄弟の了承のもと、ジェムリアップ孤児院センターへの入所を勧め、兄弟は学校へ通学し、パット君はセンターで楽しく生活できています。同じく脳性まひのソンポア君は、寝たきりの状態と栄養不足から褥瘡がひどく、てんかん発作も頻りに起こり、お母様がかなり疲弊していました。私たちは、お母様の体調への配慮やソンポア君への栄養食支給、褥瘡改善やてんかん発作への手立てを講じ、今ではソンポア君もぼっちゃりし褥瘡はすっかり完治し、お母様も生きる希望が出て、訪問時には笑顔で迎えてくださいます。



パット君



ソンポア君

その様な活動を地道に継続していたことが功を奏し、昨年からカンボジアでは最大規模の生徒数6000人のワットポー小学校での特別支援を導入することが出来ました。具体的には、浅原さんの記事をご参照ください。

日本では特別支援学校が当たり前になっている中、今はインクルーシブ教育を進めています。特別支援学校を否定するつもりはありませんが、やはり、障害のある子もいない子も一緒に育ててこそ、障害に対しての偏見が無くなります。

私達は、カンボジアへの特別支援導入に際しては、慎重に慎重に考え、「分けることが簡単な方法」とならないように、そして、個々の障害に適したかわかりが少しくもカンボジアの方たちが学べるようにアプローチしたいと思います。又、福祉局(リハビリテーションセンター)からも車いすをたくさん必要としている為、寄贈してほしいとの直接依頼も受けました。

小さな小さな団体が、どこまでできるかはわかりませんが、各メンバーが自分のできる範囲のことをカンボジアの文化を尊重し、謙虚な姿勢で活動を行うことを、改めて感じています。

私たちの活動にご賛同頂ける方へ協力をお願いします

会員の種類	個人	団体
正会員	1口1000円(月会費)	1口10000円(月会費)
賛助会員	1口1000円(年会費)	1口5000円(年会費)*賛助会員(個人)の年会費につきましては3口からお願いします。

振込先のご案内

銀行振込:みなと銀行支店:明舞支店(普)口座名:特定非営利活動法人スロラニユプロジェクト理事長飯塚由美子口座番号:3895462

郵便振替加入者名:特定非営利活動法人スロラニユプロジェクト口座記号番号:00980-1-172480

恐れ入りますが、手数料についてはご負担をお願いします。